

令和7年度

第66回

宮崎県学校体育研究発表大会

研究紀要



【期日】 令和7年10月17日(金) 中学校部会・特別支援学校部会
令和7年11月7日(金) 小学校部会・高等学校部会

【主催】 宮崎県学校体育研究会

■ 共催 宮崎県教育委員会
延岡市教育委員会 高千穂町教育委員会 日之影町教育委員会
五ヶ瀬町教育委員会

■ 会場 小学校部会 延岡市(延岡市立南方小学校)
中学校部会 延岡市(アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ)
高等学校部会 延岡市(県立延岡星雲高等学校)
特別支援学校部会 延岡市(県立延岡しろやま支援学校)

あいさつ

宮崎県学校体育研究会

会長 木宮 浩二

(宮崎県立日南振徳高等学校)

第66回宮崎県学校体育研究発表大会が、多数の御来賓や県内外からの指導助言をいただきます先生方をはじめ、多くの学校体育関係者の出席を賜り、延岡・西臼杵地区において開催できますことを心より感謝申し上げます。

本大会は1960年(昭和35年)に開催された、第1回宮崎県保健体育研究協議会を皮切りに今年度で66回目を数え、学習指導要領の変遷に対応すべく「不易流行」の精神を保ちながら、先人の情熱と努力により発展してきた大会です。平成7年度からは、小学校・中学校・高等学校部会に加え特別支援学校部会が参加したことにより、「つながりのある学習」がさらに充実し、先進的な取組として県内外から高い評価を受け現在に至っております。このことは、学校体育研究会を中心に各地区研究部が継続的に研究を行うという、本県独自の組織体制に裏付けされた成果であると言えます。

また、大会実施に当たっては、本年度から特別支援学校部会を運営していた特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会が他の校種と同様に「特別支援学校体育連盟」となり、組織の充実が図られております。全校種での特別支援教育の充実が必要不可欠となっている中、特別支援学校部会と小学校・中学校・高等学校部会とのつながりが益々強く深いものになることを期待しています。

さて、一昨年度から研究主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」、副題を「児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開」と設定し、ネット型運動領域の研究・実践を進めてきました。

本年度は、3年計画の最終年であることを踏まえ、柱としてきた「指導と評価の一体化」、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」、「共生の視点に立った指導内容の充実」の3つについて、それぞれ「思考・判断・表現における評価規準と具体的な手立ての作成」「課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用」「多様な運動やスポーツの楽しみ方を共有することができる指導内容の工夫」に取り組んできました。今回取り組んだ内容が、今後の各学校における授業実施に当たり、より具体的な参考例となることを確信しております。

本研究発表大会が本県児童生徒の発達段階を踏まえた指導法の工夫や改善はもとより、各校種における体育科、保健体育科教育のより一層の発展に繋がれば幸いです。

結びに、本大会を開催するにあたり多大な御理解と御協力を賜りました宮崎県教育委員会をはじめ、延岡市・高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町の各教育委員会、会場校並びに地区実行委員の先生方に対し厚くお礼申し上げます、あいさつといたします。

あいさつ

宮 崎 県 教 育 委 員 会

教 育 長 吉 村 達 也

第66回宮崎県学校体育研究発表大会が、延岡・西臼杵地区において盛大に開催されますことを、お喜び申し上げます。

本大会は、半世紀以上の歴史と伝統を誇る体育科・保健体育科の研究発表の場として、学校体育に関する学習指導法等の改善・充実を目的に、発展を遂げてこられました。これも、長年にわたり、小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の体育科・保健体育科の指導者が一体となって、12年間を見通した「つながりのある学習」の研究に対する真摯な取組のたまものであり、深く敬意を表する次第であります。

さて、現在、各学校におかれましては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業の充実などに取り組まれていることと思います。

本大会の開催を通して、体育・保健体育に携わる先生方が集い、授業発表や授業研究等を行うことは大変意義のあることであり、県教育委員会といたしましては、今後の学校体育の充実と教員の資質向上に寄与するものと期待しております。

参加者の皆様におかれましては、本大会で得られた成果や学びを各学校へ持ち帰り、児童生徒や地域の実態に応じた授業の改善・充実、更には各学校の課題解決や御自身の指導力向上につなげていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に当たりまして、多大な御尽力を賜りました延岡市、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町の各教育委員会の皆様、そして地区実行委員会並びに関係する方々に対し、深く感謝を申し上げまして、御挨拶といたします。

あいさつ

延岡市教育委員会

教育長 高森 賢一

県内各地の小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校から多くの先生方をお迎えし、ここ延岡の地で、第66回宮崎県学校体育研究発表大会延岡・西臼杵地区大会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。また、日頃より本県の児童生徒の健やかな心身の育成と体力向上にご尽力いただいております先生方、並びに宮崎県学校体育研究会の皆様に対しまして、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、本市も他の自治体と同じように、スポーツを活かしたまちづくりを推進し、市民一人一人の多様性を尊重し、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境づくりを進めております。子どもたちが、自らの可能性を広げ、健やかな心身を育むことは、まちづくりの根幹をなすものであり、このことに学校体育が果たす役割は極めて大きいと認識しております。

昨今の学校体育は、児童生徒の体力の向上や運動技能習得などに加え、これまでも増して社会の変化や多様なニーズを踏まえた新たな視点が重視されてきています。例えば、生活習慣病予防やメンタルヘルス・自己肯定感の向上、生涯にわたり誰でも運動を楽しめる環境、社会性を育む場としての位置付け、ICTや健康データの活用、インクルーシブなプログラムの実践などです。

そういった観点からも、本大会の研究主題「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」は重要なテーマであり、本大会での研究発表や協議をとおして、生涯にわたって運動に親しむ意欲と資質・能力を育む授業づくりが一層推進されますことを期待しております。

また、本市では数年前から、知識構成型ジグソー法の授業研究を少しずつ広げてきています。今回の小学校授業発表の一部でも、知識構成型ジグソー法の授業手法を用いた実践発表がありますので、参加の先生方からは、副題である「児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開」に関連させて、たくさんの感想や意見をいただきたいと考えております。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本研究大会の成功と宮崎県学校体育研究会の益々のご発展、並びにご参加の皆様方の今後のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、あいさつといたします。

あいさつ

延岡・西臼杵地区実行委員会

会長 安在 康喜

(延岡市立西階中学校)

県内各地から多くの関係者をお迎えし、第66回宮崎県学校体育研究発表大会延岡・西臼杵地区大会を盛大に開催できますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、今般、子ども達にとっては、生涯にわたって自ら主体的に学び続け、自分自身の人生を舵取りする力を身につけることの重要性が増してきています。そのような中、本研究会は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校という校種の異なる学校が、共通の研究主題のもと、実践と研究を重ねるといふ他県にも類を見ない取組を毎年行ってきており、本県の体育科・保健体育科全体の根幹をなす大会であります。

このような歴史と権威のある大会の取組を一步でも前に進めるために、令和5年度から令和7年度の本県の研究主題「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」のもと、本地区において全校種12年間のつながりを、発達段階に応じて系統化・明確化することを意識し、他者との関わりを通して児童生徒自身が運動や健康に関する課題を発見し、解決に向かう学習の在り方について、より深く研究を進めることとすると共に「思考力、判断力、表現力等」に関する研究を実践することにより体育科、保健体育科の学習課題の解決に迫れるのではないかという視点で研究を進めて参りました。

タブレット端末をはじめICTを使用した授業が全ての教科で実施されるようになってきておりますが、デジタル学習は、一人一人の興味や関心に応じ、よさを伸ばし、困難の克服を助けるものとして効果的に活用し、「デジタルキャリアか」、「デジタルか紙か」といった二項対立に陥らず、「デジタルの力でリアルな学びを支える」という基本的な考えに立ってバランスを保つこととしました。まだまだ、研究の途中であり、課題も山積しております。今後の継続的な研究や、さらなる充実した取組へとつなげるためにも、ご参加いただきました皆様方より、忌憚のないご意見やご指導をいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたり、ご支援、ご指導を賜りました県教育委員会、延岡市・高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町教育委員会をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げあいさついたします。

大会紀要目次

宮崎県学校体育研究会 会長 あいさつ
宮崎県教育委員会 教育長 あいさつ
延岡市教育委員会 教育長 あいさつ
延岡・西臼杵地区実行委員会 会長 あいさつ

1	第66回宮崎県学校体育研究発表大会開催要項	1
2	つながりある学習	
(1)	研究内容について(研究計画・研究の視点)	10
(2)	「つながりある学習」の学習指導案	
①	【小学校】 延岡市立東海小学校 第4学年 ネット型ゲーム(ソフトバレーボール)	
②	【中学校】 延岡市立南中学校 第2学年 球技「ネット型」(テニス)	
③	【高等学校】 宮崎県立延岡星雲高等学校 第2学年 球技「ネット型」(バドミントン)	
④	【特別支援学校】 宮崎県立延岡しろやま支援学校 高等部 球技「ネット型」(バドミントン)	
3	各部会(研究内容等)	
(1)	小学校部会	
①	研究内容(延岡・西臼杵地区小学校体育連盟)	25
②	学習指導案 延岡市立南方小学校 第5学年 ネット型(ソフトバレーボール)	
(2)	中学校部会	
①	研究内容(延岡・西臼杵地区中学校体育連盟)	31
②	学習指導案 延岡市立西階中学校 第2学年 体育理論「運動やスポーツの学び方」	
(3)	高等学校部会	
①	研究内容(県高等学校体育連盟 県北支部)	37
②	学習指導案 宮崎県立延岡星雲高等学校 第2学年 保健「医薬品の制度とその活用」	
4	幼児教育の様子	
	五ヶ瀬町保育所運動教室(五ヶ瀬町)	42
5	第66回宮崎県学校体育研究発表大会 大会役員	44
6	第66回宮崎県学校体育研究発表大会 県実行委員会委員	46

各部会の学習指導案については、宮崎県学校体育研究会ホームページに掲載

【二次元コード】

宮崎県学校体育研究会

検索



【URL】 <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc064/>

第66回宮崎県学校体育研究発表大会 延岡・西臼杵地区大会開催要項

1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

2 主 催

宮崎県学校体育研究会

3 共 催

宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 高千穂町教育委員会 日之影町教育委員会
五ヶ瀬町教育委員会

4 後 援

宮崎市市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会
宮崎県私立中学高等学校協会

5 主 管

第66回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会
延岡市小学校体育連盟・西臼杵郡小学校体育連盟
延岡地区中学校体育連盟・西臼杵地区中学校体育連盟
宮崎県高等学校体育連盟県北支部
宮崎県特別支援学校体育連盟県北支部

6 期 日

令和7年10月17日（金） 中学校部会、特別支援学校部会
令和7年11月 7日（金） 小学校部会、高等学校部会

7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

8 会 場

種 別	会 場
小 学 校 部 会	延岡市立南方小学校
中 学 校 部 会	アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ
高 等 学 校 部 会	宮崎県立延岡星雲高等学校
特別支援学校部会	宮崎県立延岡しろやま支援学校

9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習] 》 (令和5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～

《部会研究》

小学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 ～児童生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～

10 日 程

11月7日 (金)	小学校部会	9:30	10:10	11:10	14:55	15:45						
		9:00	10:00	10:55	11:55	12:55	14:45	15:40	16:00			
		受付	開会行事 研究発表 視点説明	授業発表 I (つながり)	授業発表 II (各部会)	昼休準備 食憩備	授業研究	ポスター セッション (3コーナー)	閉会行事			
		(30分)		(45分)	(45分)		(110分)					
会場： 延岡市立南方小学校												
10月17日 (金)	中学校部会	9:10	9:50	10:55	14:55	15:45						
		8:40	9:40	10:40	11:45	12:30	14:40	15:40	16:00			
		受付	開会行事 研究発表 視点説明	授業発表 II (各部会)	授業発表 I (つながり)	昼休準備 食憩備	ワークショップ 授業研究	各地区 研究発表	閉会行事			
		(30分)		(50分)	(50分)		(130分)	(45分)				
会場： アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ												
11月7日 (金)	高等学校部会	9:50	10:15	10:45	12:25	13:30	15:10	15:45				
		9:20	10:00	10:35	11:40	13:20	15:00	16:00				
		受付	開会行事	教科研究委員会 発表	視点説明	授業発表 I (つながり)	昼休準備 食憩備	授業発表 II (各部会)	ワークショップ 授業研究	研究発表	閉会行事	
		(10分)	(15分)	(20分)	(55分)	(45分)	(55分)	(90分)	(35分)			
会場： 宮崎県立延岡星雲高等学校												
10月17日 (金)	特別支援学校部会	10:00	10:40	11:40	13:00	14:10	14:50					
		9:30	10:30	11:30	12:00	14:00	14:40	15:00				
		受付	開会行事 視点説明	授業発表 I (つながり)	授業研究会 I 研究発表協議	昼休準備 食憩備	授業研究会 II ワークショップ 授業研究	研究発表	閉会行事			
		(30分)		(50分)	(20分)		(60分)	(30分)				
会場： 宮崎県立延岡しろやま支援学校												

11 内容

(1) 小学校部会

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
役職名	氏名
研究発表者 視点説明	延岡市立東小学校 教諭 藤井航平

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第4学年	ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	延岡市立東海小学校 教諭 野中海仁
II (地区)	第5学年	ネット型 「ソフトバレーボール」	延岡市立南方小学校 教諭 田中大希

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名	
指導助言者	南九州大学人間発達学部	教授 宮内 孝
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 財津吉正
司会者	宮崎市立国富小学校	教諭 安藝良介
記録者	小林市立栗須小学校	教諭 山下 駿
	高原町立後川内小学校	教諭 森永 亜由美
進行	新富町立上新田小学校	教諭 関戸 映

④ 研究発表

研究発表題目	発表者
生涯にわたる心身の健康と豊かなスポーツライフを支える資質能力の育成を目指して ～思考力，判断力，表現力等を育む少人数体育学習～	日之影町立宮水小学校 教諭 渡辺智彬
進行・司会者	椎葉村立不土野小学校 教諭 河野要世
記録者	西都市立茶臼原小学校 教諭 横山正文

研究発表題目	発表者
一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方 ～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業作りを通して～	えびの市立上江小学校 教諭 串間洵郎
進行・司会者	日向市立美々津小学校 講師 壺岐直澄
記録者	国富町立森永小学校 教諭 新原翼

研究発表題目	発表者
児童が思考・判断・表現しながら技能を向上させる授業の在り方 ～指導と評価の一体化を意識した授業改善を通して～	日南市立桜ヶ丘小学校 教諭 黒木大翔
進行・司会者	都城市立川東小学校 教諭 松山拓磨
記録者	串間市立本城小学校 教諭 宇佐季笑

(2) 中学校部会

① 研究発表及び視点説明

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方	宮崎市立宮崎西中学校 教諭 上妻 憲祐
(視点説明) 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡市立北川中学校 教諭 原田 卓弥

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：テニス)	延岡市立南中学校 教諭 前田 啓介
II (地区)	第2学年	体 育 理 論 (運動やスポーツの学び方)	延岡市立西階中学校 教諭 徳 淵 喬

③ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	宮崎大学教育学部	教授	日高正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	甲斐浩記
司会者	新富町立富田中学校	教諭	浮島大介
記録者	小林市立三松中学校	教諭	岡上 桂
	宮崎市立大淀中学校	教諭	水元 竜太郎
進行	美郷北義務教育学校	教諭	佐藤 浩行

④ 地区研究発表

	【 地 区 】 研究発表題目	発表者
1	【 日 向 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日向市立東郷学園 教諭 矢野 正道
2	【 宮 崎 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 寶田 光貴
3	【 都 城 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	都城市立山之口中学校 教諭 鹿島 鉄平
4	【 南 那 珂 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日南市立飫肥中学校 指導教諭 田中 美津子

(3) 高等学校部会

① 教科研究委員会発表

内 容	発 表 者
生徒の「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を 育む手立ての工夫 ～ 思考ツール活用の在り方 ～	県立小林秀峰高等学校 教 諭 太田 聡 (県高体連 教科研究委員長)

② 視点説明

視 点 説 明	県立五ヶ瀬中等教育学校	教 諭 吉岡 奈津希
---------	-------------	------------

③ 授業発表

	学年	単 元	発 表 者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：バドミントン)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 近藤 伸哉
II (地区)	第2学年	保 健 (医薬品の制度とその活用)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 加藤 順也

④ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	日本女子体育大学	教 授	高橋 修一
司 会 者	県立妻高等学校	教 諭	角田 太
コーディネーター	県立小林秀峰高等学校	教 諭	太田 聡
	県立高千穂高等学校	教 諭	甲斐 奎佑
記 録 者	延岡学園高等学校	講 師	楠元 龍水
	県立延岡工業高等学校	教 諭	山中 貴弘

⑤ 研究発表

	研 究 発 表 題 目	発 表 者
1	【西諸支部】 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う球技ネット型の授業をとおして～	県立飯野高等学校 教 諭 都甲 尚寛
2	【宮崎・東諸支部】 ICTとシンキングツールを活用した授業の展開 ～「主体的・対話的で深い学び」を生み出す環境づくり～	宮崎学園高等学校 教 諭 溝口 政志
役 職 名	氏 名	
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 白石 剛二
司 会 者	県立妻高等学校	教 諭 角田 太
記 録 者	県立日向高等学校	教 諭 濱田 悠暉
	県立門川高等学校	教 諭 寺田 勢哉

(4) 特別支援学校部会

① 視点説明

視点説明	県立延岡しろやま支援学校	教諭	金田健吾
------	--------------	----	------

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	高等部	球技 (バドミントン)	県立延岡しろやま支援学校 教諭 上野航

③ 授業研究会Ⅰ・授業研究会Ⅱ

役職名	氏名		
指導助言者	日本体育大学体育学部	准教授	村井敬太郎
担当者	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	長友啓輔
司会者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	伊東寿晃
記録者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	野田航平
	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	小松鉄平
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

④ 研究発表

活動報告及び研究発表題目		発表者	
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習～「ひなたの学び」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指して～		県立児湯るびなす支援学校 教諭 坂田拓也	
役職名	氏名		
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	五十嵐 舞
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

12 参加申込み方法

下記期日までに以下のアドレス、または二次元コードを利用して申し込むこと。

※大会役員・実行委員もそれぞれ申込みをして下さい。

小学校部会	中学校部会	高等学校部会	特別支援学校部会
申込締切 10月17日(金)	申込締切 9月26日(金)	申込締切 10月17日(金)	申込締切 9月26日(金)
			
https://forms.gle/ZQXDzjqwr8e9Xx4AA	https://forms.gle/ECXyCz5GTSYH8kNA9	https://forms.gle/hiuUh8Uk9hma4rVz7	https://forms.gle/2tALj3uRWfb9xfyu8

【問い合わせ先】

宮崎県学校体育研究会事務局（高体連事務局内）

電話 0985-51-4109

駐車場について

小学校部会

小学校部会（11月7日）の駐車場は、会場校（延岡市立南方小学校）の運動場です。
会場校運動場は約100台駐車可能ですが、もし満車の場合は小峰グラウンドへの駐車をお願いいたします（徒歩10分程度）。

※ 会場周辺での通行については、当日の役員の指示に従ってください。

※ 以下の太線は徒歩ルート



中学校部会、高等学校部会、特別支援学校部会

各部会が開催される施設の駐車場をご利用ください。

- (1) 中学校部会 … アスリートタウン延岡アリーナ 駐車場
- (2) 高等学校部会 … 県立延岡星雲高等学校 駐車場
- (3) 特別支援学校部会 … 県立延岡しろやま支援学校 駐車場

つながりのある学習

宮崎県の“つながりのある学習”について

(1) 基本方針

宮崎県学校体育研究発表大会では、本研究会の趣旨を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた望ましい体育学習のあり方について、以下のような共通視点を持ち、研究を推進する。

ア 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指した学校体育の在り方を研究推進する。

イ 研究にあたっては、各校種の研究活動を推進すると共に、各地区（支部）の小・中・高・特が合同研究会を組織し、県学体研研究部と連携して『つながりのある学習』の研究推進を図る。

(2) 『つながりのある学習』の基本的な考え方

“つながり”は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校、そして特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童・生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童・生徒像を明確にし、共通認識を持ちながら研究を進めていく必要がある。

令和7年度 第66回宮崎県学校体育研究発表大会延岡・西臼杵大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題 (R5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～

2 部会別研究主題

部会名	主 題
小学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～

3 主題の設定理由

(1) 学習指導要領の趣旨

学習指導要領では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識及び技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力,判断力,表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力,人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力,判断力,表現力等」、「学びに向かう力,人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、三つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるとしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にもかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和6年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べ、体力向上が見られる項目が増えているが、引き続き低下している項目もある。体力の合計得点についても、全体的に回復傾向にあるが、中学生の女子が低下傾向にある。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いている。「シャトルラン」及び「ボール投げ」については、全体的に回復傾向にあるものの、中学生と高校生の女子が低下傾向である。

「長座体前屈」については、年々向上する結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、体力が高い児童生徒はスクリーンタイムが短い傾向にあるという結果となっている。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校が94.2%、中学校が89.6%、高等学校が91.5%となっており、体育授業が楽しいと感じる児童生徒が多い状況である。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ボール運動系」及び「球技」の「ネット型」において研究を深め、小中高特による「つなぐりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つなぐりのある学習』における、「つなぐり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつなぐりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点をもちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童生徒像を明確にし、共有認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

4 研究を進めるにあたって

小中高特の「つなぐりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す三つの資質・能力を児童生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

③ 共生の視点に立った指導内容の充実

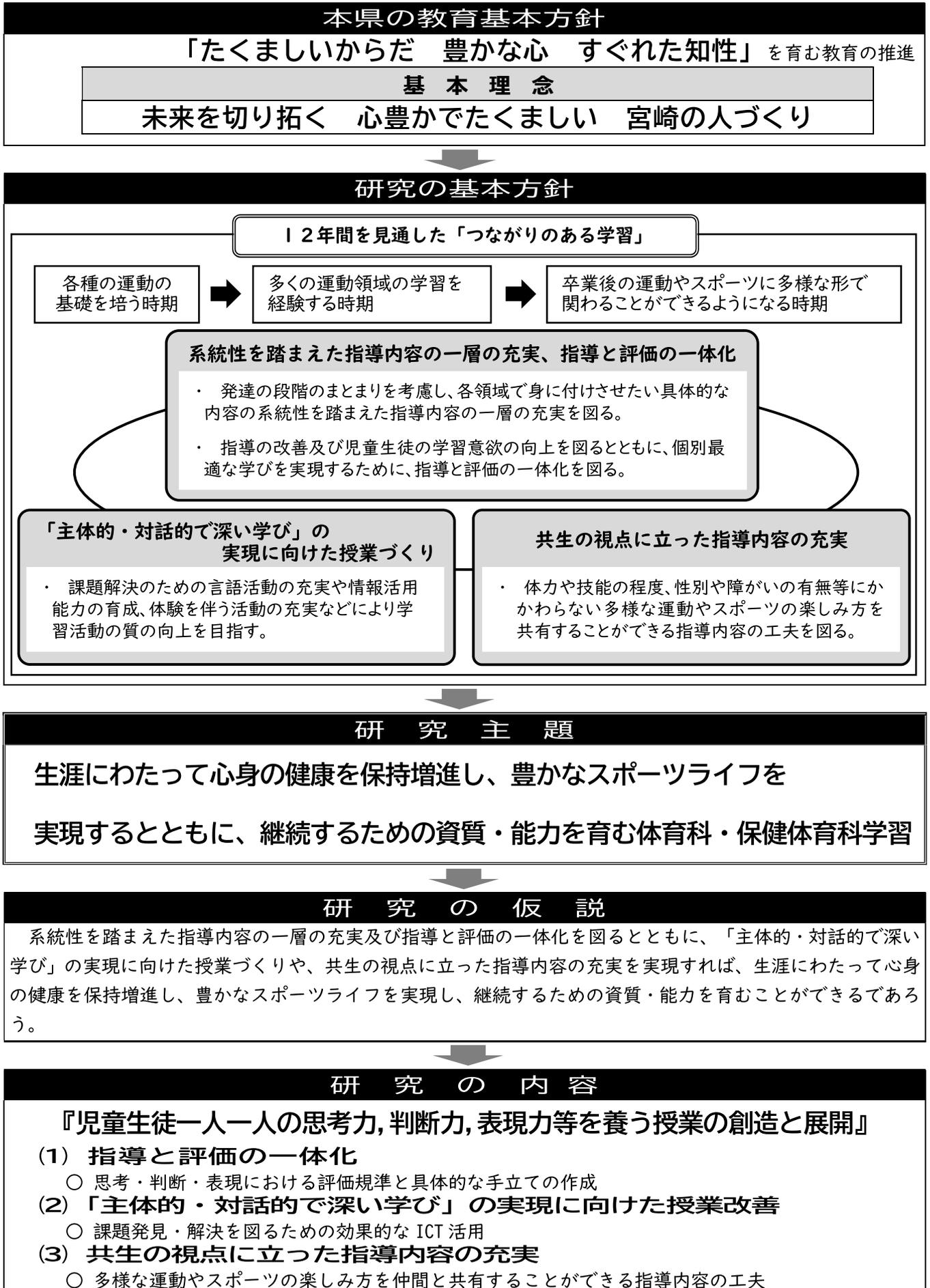
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標とし、多角的な視点での研究を進めることとする。

5 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

6 研究の概要（研究構想図）



7 研究の内容

【研究の方向性の整理】

本県では、令和5年度から令和7年度までの3年間は、「球技ネット型」の研究を深め、小中高特における「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指している。これまで、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達段階に応じた指導方法や評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行ってきた。主に「スキルアップテキスト」や「学習内容系統表（技能編）」を作成したり、タブレット端末で試技を撮影することで課題発見・課題解決をしたりし、「知識及び技能」を中心に据えた研究から「つながりある学習」を展開することができた。

令和5年度の串間・日南地区大会からは、「思考力,判断力,表現力等」を中心に据えて研究を深め、「つながりのある学習」の一層の充実を図っている。この大会では、「学習内容系統表（思考力,判断力,表現力等）」や「思考ツール活用事例集」の作成に取り組み、「思考力,判断力,表現力等」の育成を進めた。

令和6年度の小林・えびの・高原大会においては、デジタル学習カードの活用や、共生の視点に立った教材・教具の工夫を行い、「思考力,判断力,表現力等」に関する研究をさらに深めた。

本年度の延岡・西臼杵地区大会は、3年計画の最終年であることを踏まえ、これまでの研究との「つながり」を意識しつつ、研究内容を以下の3点に整理して研究を進めている。

- (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化
 - 思考・判断・表現における評価規準と具体的な手立ての作成
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
 - 課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用
- (3) 共生の視点に立った指導内容の充実
 - 多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

体育科・保健体育科における思考力,判断力,表現力等について実現状況を判断する目安を作成した。作成に当たっては、学習指導要領の例示を参考にし、できるだけ分かりやすい表現に整理して、授業で活用しやすいものとなるよう工夫した。また、C・B評価の児童・生徒に対する教師側の手立てを設定することで指導と評価の一体化を図った。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

これまで ICT 機器を使用した思考ツールの活用や、デジタル学習カードの活用に関する研究を通じて課題の解決を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを行ってきた。本年度は、これまでの研究の成果である課題解決に関する ICT の活用に加え、課題を発見するための ICT 活用について各校種で研究を行った。

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

共生の視点に立った球技ネット型の学習における教材及び教具の工夫や態度に関する指導の充実を図った。教材及び教具については、「人」「もの」「ルール」の観点から各校種でアプローチを行った。また、態度に関する指導についても単元を通して行うことで、豊かな人間関係や共感的な態度の育成を目指した。

8 研究の実践

小学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

①方法

学習指導要領解説において示されている文言をもとに、子どもの具体的な姿がイメージできるように評価規準を作成し、学習指導案に明記した。また、毎回の授業で使用するワークシートに振り返りの欄を設けることで、児童が自己評価しやすくなるようにした。自己評価させる際の文言は、作成した評価規準をもとにし、指導と評価の一体化が図れるようにした。なお、このワークシートは柱(2)の取組を兼ねるとともに、自分の当てはまるものに丸を付ける形式にした。

②考察

評価規準をもとに毎回の授業で振り返りを行う。その振り返りをもとに次時の課題として設定することで、指導と評価の一体化が図りやすくなると考えられる。また、教師の一方的な評価ではなく児童の自己評価も促すため、教師と児童の認識のずれを少なくすることができ、授業改善にも役立つものになると期待される。

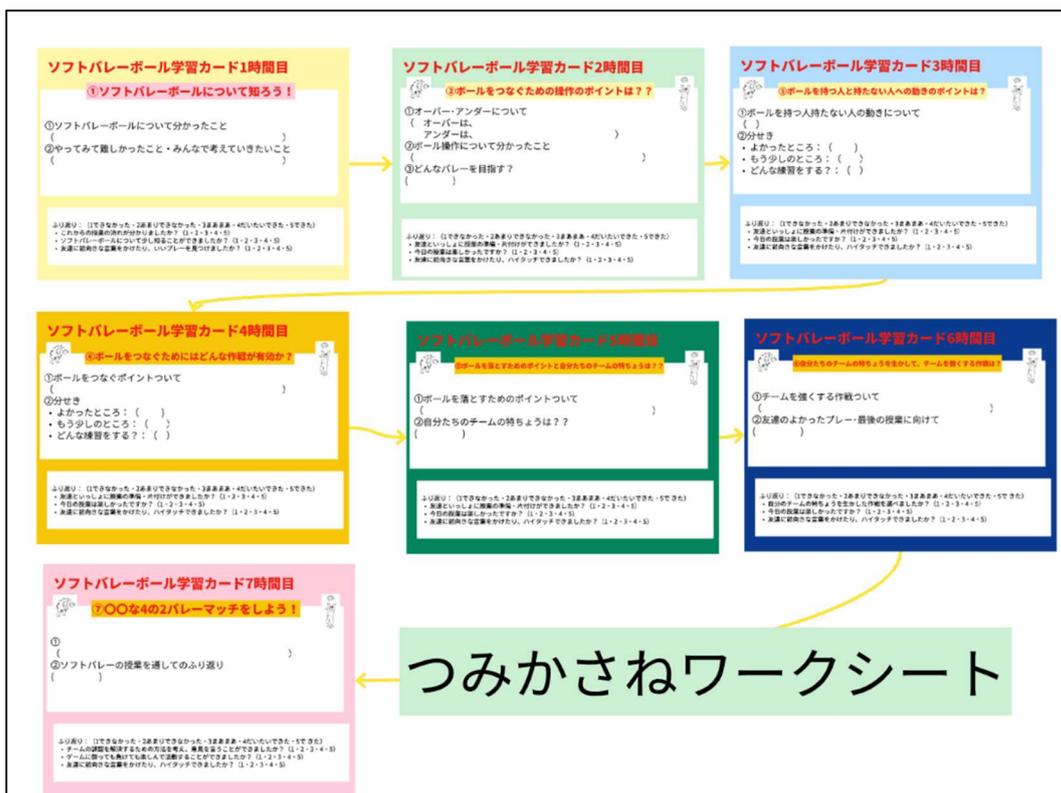
(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

①方法

学習指導要領解説において示されている文言をもとに、児童の具体的な姿がイメージできるように評価規準を作成し、学習指導案に明記した。また、毎回の授業で使用するワークシートに、チームや個人の「よかったところ」「よくなかったところ」「どんな練習をするか」を振り返り、記述できる欄を設定した。また、ICTを活用し、毎回のワークシートを1枚のシート上に載せることで、チームや個人の特徴を把握しやすくなった。

②考察

ICTを活用し、1枚のシートに毎回の授業で見つけたチームや個人の課題やよさを書き込むことにより、過去の自身の記述を確認することができ、よりチームや個人の特徴を把握しやすくなると考えられる。その結果、課題発見・解決を図りやすくなると期待される。



ワークシートの児童の記述

ソフトバレーボール学習カード5時間目

⑤ボールを落とすためのポイントと自分たちのチームの持ちようは??

①ボールを落とすためのポイントついて
(・相手がいないところに、ボールを打つ。・ネットスレスレにボールを落とす。)

②自分たちのチームの持ちようは??
(強・声掛け 弱・ボールをキャッチするタイミング・3回でボールを返せない。)

ふり返し：(1でできなかった・2あまりできなかった・3まあまあ・4だいたいできた・5できた)
・友達といっしょに授業の準備・片付けができましたか？(1・2・3・4・5)
・今日の授業は楽しかったですか？(1・2・3・4・5)
・友達に前向きな言葉をかけたり、ハイタッチできましたか？(1・2・3・4・5)

ソフトバレーボール学習カード3時間目

③ボールを持つ人と持たない人への動きのポイントは？

①ボールを持つ人持たない人の動きについて
(ボールを持つ人は仲間がどこに行くのかどこに打ったら取りやすいのかを考える。ボールを持たない人は仲間がどこに打つのか声掛けをする。どうすれば仲間が打ちやすいところを考えて行動する。)

②よかったところ・もう少しのところ
(声掛けがよかった。動きを変えたらもっといい試合が出来ると思う。)

ふり返し：(1でできなかった・2あまりできなかった・3まあまあ・4だいたいできた・5できた)
・友達といっしょに授業の準備・片付けができましたか？(1・2・3・4・5)
・今日の授業は楽しかったですか？(1・2・3・4・5)
・友達に前向きな言葉をかけたり、ハイタッチできましたか？(1・2・3・4・5)

2025/6/16

予想される各チームから出される課題

チームワーク面	技能面
<ul style="list-style-type: none"> ・声かけができていない ・だれがボールをとるかがわからない ・仲間が失敗したときにせめてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを高く上げていない ・パスが繋がらない ・ボールをコントロールできない ・あせってしまう

(3)共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

性別や能力差等にかかわらず全員が運動を楽しむために、ルールや用具を工夫する実践は多くなされてきた。しかし、その土台となる学級の雰囲気づくりやマネジメントについて課題が見られることがあった。そこで、まずは土台を整備するために「『みんなが楽しい体育』の土台チェックシート」を作成した。このシートには、教師が授業を計画する際や授業中に意識するとよいことを「学習の勢いがあるか」と「雰囲気がよいか」という二つの観点に分けて明記している。毎回の授業でなくとも、節目節目で教師自身が自分の授業を振り返る指針として活用していく。

②考察

「『みんなが楽しい体育』の土台チェックシート」を活用することで、肯定的な人間関係を築いたり、あたたかな授業の雰囲気をつくったりするための授業マネジメントがしやすくなると考えられる。その結果、性別や能力差等にかかわらず、体育を楽しむことができるようになるためのルールや用具の工夫がより効果を発揮すると思われる。

「みんなが楽しい体育」の土台チェックシート

「学習の勢い」がある授業になっているか 学習活動に迷いがなく、学習成果に向けてアツクよく学習が進行しているか

運動する時間がたくさん計画されているか

学習の約束事が確立され半元はじめに徹底した方向付けがされているか

子ども達の学習が教師の介入によって中断される頻度が多くないか

具体的に分かりやすい学習目標が設定されているか

子ども達が「やってみたい・できそう」と思える教材や場が設定されているか

「雰囲気のよい」授業になっているか 肯定的な人間関係行動や情態行動の頻度が高く、明るく温かい雰囲気が醸し出されているか

【子どもの様子】

ペアやグループで積極的に活動や思考をしているか

子ども同士で賞賛や励まし、助言、補助などの肯定的な人間関係行動が多く見られるか

学習行動にかかわる笑い、拍手、ガッツポーズ、ハイタッチなどの肯定的な行動がたくさん見られるか

【教師の行動】

一人一人に、賞賛・助言・励まし・補助などを行っているか

ペア学習やグループ学習など集団が積極的にかわれる学習形態がとられているか

肯定的なかかわり方(役割行動、教え合い活動、補助による協力、マナーなど)を徹底して指導している

(ボール運動の場合) 肯定的な人間関係行動や情態行動を儀式形式として位置づけ、意図的にこれらを表現させている(例 ゲーム前後のあいさつ・握手、得点したときの喜びの表現やハイタッチ、失敗したときのドンマイコール、ゲーム終了後にチームメイトのよかったところを評価し合う など)

参考文献 高橋 健夫 2003 体育授業を観察評価する

中学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

①方法

球技における思考力、判断力、表現力等について、学習指導要領に例示されている内容を B 評価の規準とし、これを基に A 評価および C 評価の規準を設定した。また、これらの評価規準に対応したテニス授業用のワークシートを作成し、生徒が活用しやすいように工夫した。さらに、C 評価と B 評価に該当する生徒に対して、教師が具体的にどのような手立てを講じるかを明確にすることで、指導と評価の一体化を図った。

「球技 第1学年及び第2学年における思考・判断・表現に関する評価規準表」

評価	A	B	C
1	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。
2	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。
3	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。
4	裏書を添えず、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、場面や状況などにより具体的な理由を添えて他者に伝えている。	裏書を添えず、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、場面や状況などにより具体的な理由を添えて他者に伝えている。	裏書を添えず、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、場面や状況などにより具体的な理由を添えて他者に伝えている。
5	協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。	協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。	協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。
6	話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を根拠を示して他者に伝えている。	話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を根拠を示して他者に伝えている。	話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を根拠を示して他者に伝えている。
7	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。

「体育理論 第1学年及び第2学年における思考・判断・表現に関する評価規準表」

評価	A	B	C
1	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。
2	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。
3	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。
4	協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。	協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。	協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。
5	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。

【本時の目標】 テニスで起こり得る危険性を見付け、仲間に伝えよう！ ③

Q1 これまでの授業を振り返り危険な場面を書き出そう！

どのような場面・状況で どのような危険性があったか？

① サーブ練習の 相手にこちらを向いていなくてボールが当たる 時に 危険性があった

Q2 ①②の危険を回避するためにできることは？

① A 相手が見ていることを確認して「いきます」等の声掛けを行いサーブを打つ
B 相手はこちらを見たと確認してプレーを始める。

②

【本時の目標】 提示された参加の仕方を基に、自分のチームへの関わり方を示そう！ ⑥

下記から今日の授業で担当した参加の仕方を、チームに貢献するために工夫したことを書き出そう！

審判 動画撮影 応援 球出し

① ②

担当した役割 審判 審判

工夫したこと A例 チームの〇〇さんは、ベースライン近く(後ろ)のプレーが苦手なので、アドバースができるように線審を担当した。
B例 後ろからプレーを見てみたかったので線審を担当した。

②考察

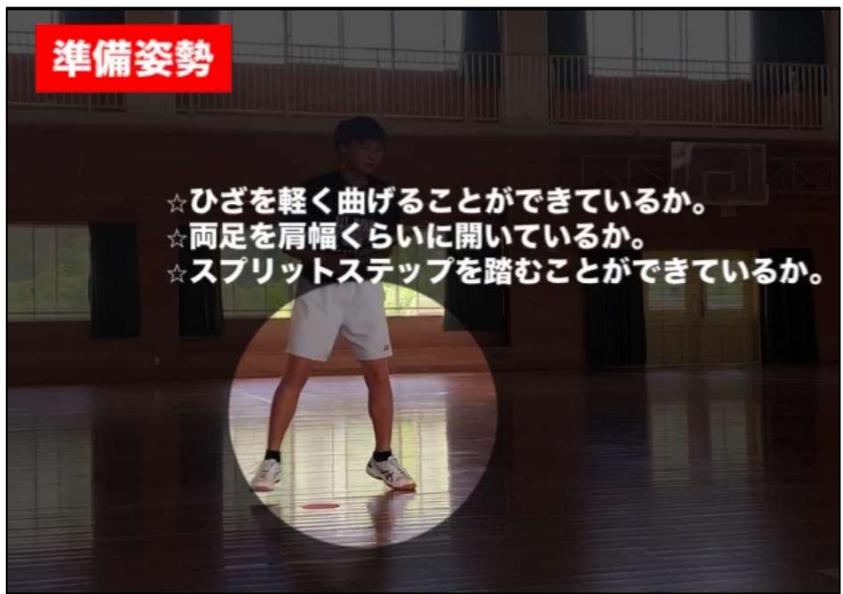
実現状況を判断する目安を作成することで、生徒の様子を素早く把握して評価でき、学習の改善につなげることができる。さらに、教師自身が指導の成果や課題を把握できるため、授業の改善にも役立つ効果が期待される。また、C 評価と B 評価の生徒に対する具体的な手立てを設定することで、生徒のつまずきを迅速に把握し、適切な対応を講じることが可能となり、指導と評価の一体化の実現に近づくと考える。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

①方法

課題解決型の授業を充実させるためには、生徒が自他の課題を発見し、把握した上で学習に取り組むことが重要であると考え、「課題発見のための視点表」を作成した。作成にあたっては、生徒がつまずきやすいポイントを抽出し、課題を見つけやすくするために視点を絞り込めるよう工夫した。また、動きや動きのポイントを視覚的に確認して正しい動きをイメージできるようにするためのデジタル資料と、自他の動きを分析するために活用する紙媒体の視点表の2種類を作成し、目的に応じて使い分けられるようにした。

試合における視点表	
2年()組 名前()	
☆試合を振り返り、動きのチェックをしよう。	
試合	
① ルールを理解して行うことができるか。	はい・いいえ
② 相手と正対して準備姿勢をとることができるか。	はい・いいえ
③ おらった場所に打つことができるか。	はい・いいえ
④ 空いている場所に返すことができるか。	はい・いいえ
ペアでのコミュニケーション	
① ペアにポジティブな声掛けができるか。	はい・いいえ
② ハイタッチをすることができるか。	はい・いいえ
フェアプレー	
① ルールを守り試合を行うことができるか。	はい・いいえ
② 相手を尊重して試合を行うことができるか。	はい・いいえ
☆試合動画を見て確認しよう。	
試合	
コミュニケーション	
フェアプレー	
☆自分の課題を見つけ改善策を書き出そう。	
試合	
コミュニケーション	
フェアプレー	



②考察

「課題発見のための視点表」を活用することで、生徒は自他の課題を把握でき、課題解決に向けて意欲的に学習に取り組む姿が期待される。また、個々の動きを分析できるため、個別最適な学びの実現にも効果が期待できる。

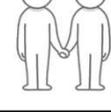
(3) 共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

昨年度、西諸地区が作成したバレーボールのアダプテッドシートを参考に、テニスにおける人・もの・ルール
の工夫を系統的に一覧表にまとめ、指導者や生徒の実態に応じて選択できるようにした。

☆アダプテッドシート

→ 性別、体力、能力、障害、経験等に関係なく、やりたい人が誰でも楽しく参加できるよう「適合(adapt)」させる。

ボール もの	ラケット もの	人数 人	サービス	
			位置	方法
① ミニテニスボール  スピードが遅く、当てやすい。	① 正規ルール 「ミニテニスラケット」 	① 2人対1人  動く範囲が狭い。	① コートの中から  コートに入れやすい。	① 投げ入れ  ボールをコントロールしやすい。
② スポンジボール 		② 「1人対1人」 	② 「ベースラインの後ろ」 	② バウンド打ち 

フェアプレイ (楽しさや安全性、公平性の確保/互いを尊重する気持ち)

「ひと」のアダプテッド

仲間との協力 (仲間との連携を高めて気持ち良く活動/人間力の向上)

②考察

授業を進めるにあたって、ゲームにおける様々な工夫を生徒の実態に応じて選択することで、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、楽しむことができると考える。

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

① 方法

学習指導要領解説の例示を参考に、球技における思考力、判断力、表現力等について実現状況を判断する目安を作成した。作成に当たっては、学習指導要領解説の例示に記載している内容をB評価とし、A評価とC評価を設定した。また、C・B評価の生徒に対する教師側の具体的な手立てを設定することで指導と評価の一体化を図った。

思考・判断・表現に関する評価規準表（入学年次の次の年次）				
A評価	B→A評価への手立て	B評価（例示）	C→B評価への手立て	C評価
自己やチームの動きを客観的に観察・分析し、根拠を示しながら具体的なかつわかりやすく改善点や良さを伝えている。	・動きの特徴を図やモデルで示し、視覚的にもわかりやすく伝える練習をさせる	選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。	・手本の動画と自分や仲間の動きを比較し、違いや特徴を記録させる ・動きのチェックリスト（姿勢・タイミング・位置等）を活用し、観察視点を明確にする	動きの良し悪しに気づいているものの、具体的な分析や根拠が曖昧で、適切に伝えることができていない。
試合や練習の状況を的確に捉え、根拠とともにチームや自己の技術・戦術的な課題を発見し、共有している。	・発見した課題の原因を分析させ、次のプレーや練習への活用法を考えさせる ・課題をチーム全体に共有し、他者に伝える力を養う	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。	・チーム練習の映像やスコアから具体的な課題を探す活動をする ・課題と練習メニューを結びつけるシートを活用する	課題の発見に根拠や具体性が乏しく、共有や改善に結びついていない。
課題解決の目的に応じて有効な練習計画を立案し、練習方法や順序を明確にした上で実践・共有している。	・練習メニューの意図やねらいを仲間に説明させる ・練習の効果検証（ビフォー・アフター映像比較など）を通じて、改善案まで考えさせる	チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。	・課題に対して複数の練習方法を提示し、それぞれのねらいや効果を比較・検討させる ・「いつ・誰が・どうする」まで明確にさせる計画表を活用する	練習計画が曖昧で、課題に適した内容を自ら選び取ることができていない。
チームや自己の安全を守るために、状況を的確に把握して適切な行動を提案・実行し、仲間にも助言している。	・体調や天候に合わせて練習の強度や内容を柔軟に調整させ、その判断理由を言語化させる ・仲間に対して安全に配慮した行動を提案する場を設ける	練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。	・練習中に起こりうる危険（転倒、接触など）を写真や事例で提示し、その回避策を考えさせる ・安全視点カードを活用する	危険に気づけなかったり、適切な対処ができず、安全確保の行動が不十分である。
自他の行動を振り返り、それがなぜ適切または不適切であったかを具体的に言語化し、改善点を他者に伝えている。	・自身や仲間の行動を記録し、なぜその行動がよかったか、具体的に言語化させる ・他者に伝える場面（チームの振り返り発表）を設ける	練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。	・試合映像からフェアな行動やよくない行動を見付けさせ、理由を考えさせる ・チームで「よいマナー行動リスト」を作成し、共有する	自他の行動の良否に気づけなかったり、マナーの重要性を振り返る視点を持っていない。
状況に応じて自他の役割を的確に捉え、チームの目的達成に向けて積極的に提案・実行している。	・状況に応じて他者の役割との調整や提案ができるように、役割分担会議やふりかえりシートを導入する ・なぜこの役割がチームに必要なかを発表させる	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。	・さまざまなチーム内の役割（声かけ、進行、分析など）の例を提示し、自分に合った役割を選ばせる ・役割ごとの具体的な活動例を観察・模倣させる	与えられた役割を十分に理解・実行できなかったり、状況に応じた提案ができていない。
チームの意見を尊重しながら、自分の考えを明確に伝え、全員が納得できるように話し合いをリードしている。	・対立意見が出たときの調整方法（妥協点の探し方、代替案提示）をロールプレイで練習させる ・合意に至るまでのプロセスをふりかえりで言語化させる	チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。	・話し合いの進め方（話す順序、意見のまとめ方）をモデル提示する ・意見を整理するカードなどを使い、可視化させる	話し合いで自分の意見を述べるのが難しく、合意形成に向けた調整ができていない。
メンバーの特性や状況に応じて、誰もが楽しめるような活動の工夫やルールの調整を提案・実践している。	・実践した調整の効果を振り返り、さらに良くするにはどうするか考えさせる ・配慮の工夫を他チームに紹介・共有させる	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。	・活動時の体格・技術差を具体的に提示し、どのような困りごとが起きるかを考えさせる ・ルール調整の実例を提示し、自分たちでルールを工夫させる	活動の中で仲間の違いに気づかず、自分中心の関わり方となっており、調整の工夫が見られない。
球技で得た学びを、自分の将来や生活と結び付け、具体的に「する・みる・支える・知る」の実践方法を描いている。	・自分の関心のある関わり方をより具体化させ、将来の関わり方を発表させる ・地域スポーツや職業人インタビューを通じてリアリティをもたせる	球技の学習成果を踏まえて、事故に遭った「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	・「する、みる、支える、知る」のそれぞれの関わり方の事例を示し、自分に合ったものを選ばせる ・将来の生活とスポーツを結びつけるワークシートを活用する	学習成果を日常や将来の運動に活かす視点が乏しく、「関わり方」を自分事として捉えられていない。

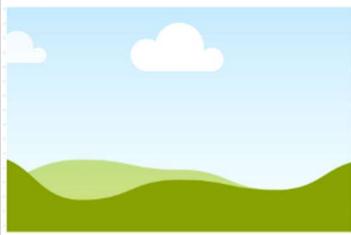
② 考察

教員が評価規準を明確に持つことで、授業の目標や指導内容に一貫性を持たせることができると考える。これにより、指導の方向性がぶれることなく、計画的に授業を進めやすくなる。また、目標達成に向けた具体的な手立てを作成することで、個々の生徒の理解度や技能の程度に応じた適切な支援が可能となり、授業全体の質の向上が期待される。

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

①方法

課題解決型の授業をより充実させるため、生徒が自他の課題を把握し、主体的に学習に取り組めるよう「課題発見のためのスキルチェックシート（バドミントン）」をICTツールであるCanvaを活用して作成した。作成に当たっては、生徒がつまづきやすい要点を絞り込み、効率的に課題を見付けられるように工夫した。また、動作の理解を深めるために、映像資料と連携した視覚的な解説を盛り込み、正しい動きのイメージ形成を支援できるようにした。これにより、一つのデジタルツール内で多様な学習支援が行えるようにした。

ミスの種類	面の向き	打点	姿勢	自分のフォームと比較してみよう	
ネットミス	面が下を向いている	体の前すぎる／低すぎる位置で打っている	体重が後ろに残っている		
アウトミス（奥）	上を向きすぎている	体の後ろでインパクトしている	力みすぎて上半身が反っている		
アウトミス（サイド）	横にずれている スイング方向がぶれている	体の横または遠すぎる位置で打っている	踏み込みが不十分		
空振り、芯を外す	面の準備が遅く、向きが安定しない	適切な位置に入っていないため、打点が毎回変わる	移動が間に合わない		
力が伝わらない	面が固定されず力が逃がれている	低すぎる／体の近すぎる場所で打っている	手打ちになっており、体重移動が使えていない		

オーバーヘッドストローク

【面はネットに対し、上下に振り出す。】

【肘とグリップエンドがから振り出す。】

【足を引いて、上半身を前に振り出す。】

ネットの下の落下地点から、ネットの上でボールを打つ。

②考察

スキルチェックシートを活用することで、生徒は自他の課題を具体的に把握できるようになり、主体的に学習へ取り組む姿が見られると考える。また、課題を共有しながら互いに意見交換を行うことで対話的な学びが促進され、単なる知識習得にとどまらず、深い理解と課題解決力の向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現につながることが期待される。

(3)共生の視点に立った指導内容の充実

①方法

共生の視点に立った指導内容の充実のために、性別の差や技能の程度の差が少ないバドミントンの特性を活かし、男女共習のもと体力や技能等が均一になるようなグループ編成を行った。また、それぞれの得意なスキルを活かすことができるようなルールを工夫を選択できるようにした。

②考察

体力や技能等が均一になるようなグループ編成を行うことで、生徒同士で互いに課題を見付け、アドバイスし合う姿が見られると考える。また、ルールを工夫することで、技能の習得だけでなく、互いに教え合う態度や共感的なコミュニケーション能力、豊かな人間関係を育むことができると考える。生徒同士の相互理解や協力関係を深め、共生の視点に立った環境づくりにつながると考えられる。

特別支援学校部会

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

○思考・判断・表現における評価規準と具体的な手立ての作成

①方法

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実と指導と評価の一体化を図るために、小学部「ボール遊び」「ボールを使った運動やゲーム」、中学部、高等部「球技」における『思考力,判断力,表現力等について実現状況を判断する目安』と『具体的な手立て』を作成した。

『思考力,判断力,表現力等について実現状況を判断する目安』については、特別支援学校学習指導要領解説を参考にし、小学部1段階から高等部2段階までの各段階の思考・判断・表現の目標を「思考」「判断」「表現」の3項目に分け、それぞれを達成する目安を作成した。さらに、小学部3段階以降はA・B・C評価に分け、具体的な指導と評価の一体化を図った。また、これらの目標を達成するための手立てとして『実現状況を達成するための手立て』を作成した。

○ 思考力,判断力,表現力等について実現状況を判断する目安 (ピンク:思考、水色:判断、黄色:表現)

学 部	小学部			中学部		高等部	
	1段階 「E ボール遊び」	2段階 「E ボールを使った運動やゲーム」	3段階 「E ボールを使った運動やゲーム」	1段階 「E 球技」	2段階 「E 球技」	1段階 「E 球技」	2段階 「E 球技」
各段階での思考・判断・表現の目標	ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したことを他者に伝えること。	球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える。	球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
目標の実現状況の判断の目安	思考			自分の課題を、これまでの学習から ☑ 見付けることができる。 ☑ 選択肢から見付けることができる。 ☑ 教師と一緒に見付けることができる。	自分やチームの課題を、これまでの学習から ☑ 見付けることができる。 ☑ 選択肢から見付けることができる。 ☑ 教師と一緒に見付けることができる。	自他の課題を、 ☑ 発見することができる。 ☑ 選択肢から発見することができる。 ☑ 教師と一緒に発見することができる。	自他の課題を、 ☑ 発見することができる。 ☑ 選択肢から発見することができる。 ☑ 教師と一緒に発見することができる。
	表現		自分に合ったルールや道具などを、 ☑ 工夫することができる。	自分の課題を解決するための活動を、 ☑ 考えたり、工夫	自分やチームの課題を解決するための活動を、 ☑ 友達と考えたり	自他の課題を解決するための方法を、 ☑ 工夫したり、仲	自他の課題のよりよい解決のための方法を、 ☑ 仲間と思考・判

②考察

『思考力,判断力,表現力等について実現状況を判断する目安』の作成については、小学部1段階から高等部2段階までそれぞれの目標に対する実現状況の判断を一覧にしていることで、系統的な指導やそれぞれの実態に合わせた目標の設定及び評価ができると考える。各目標を「思考」「判断」「表現」の項目ごとに整理し記載することで、より具体的で充実した指導内容を設定することができると思う。

『実現状況を達成するための手立て』を作成することで、一人一人の実態に合わせた指導方法を参考にし、教師の安定した授業づくりと児童生徒への適切な指導を行うことができると思う。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

○課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用

①方法

本校児童生徒の実態を踏まえ、まずは「主体的な学び」を実現するための方法として ICT・その他の教材を効果的に活用し、「自己選択・自己決定」ができるための教材の作成に取り組んだ。その一つとして、タブレット端末上に練習内容を画像や動画で提示・選択ができるようにし、自

第 66 回宮崎県学校体育研究発表大会延岡・西臼杵地区大会

研究内容及び研究の方向性と授業の視点

つながりのある学習

■授業の視点

部会名	該当学年 活動内容	研究内容及び研究の方向性		
		(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化 思考・判断・表現における評価基準と具体的な手立ての作成	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり 課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用	(3) 共生の視点に立った指導内容の充実 多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫
小学校	第4学年 (6/7時間目) ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	児童の実態に応じた評価基準の作成及びそれに応じた児童用ふりかえりシートの作成と活用	自身及びチームの課題発見を促す「つみかさねワークシート」の作成と活用	「『みんなが楽しい体育』の土台チェックシート」の作成と活用
中学校	第2学年 (8/12 時間目) ネット型 「テニス」	思考力、判断力、表現力等の実現状況を判断する目安を基に、各評価における生徒の姿と評価に応じた手立てを設定することで指導と評価の一体化を図る。	生徒がつまずきやすい点や動きのポイントを盛り込んだ「課題発見のための視点表」を作成し、課題解決型の授業の充実を図る。	テニスにおける人・もの・ルールへの工夫を系統的に一覧表にまとめた“アダプテッドシート”を活用し、生徒の実態に応じた指導の充実を図る。
高等学校	第2学年 (4/15 時間目) ネット型 「バドミントン」	教師側の、思考・判断・表現に関する評価規準表を作成し、指導と評価の一体化を図る。	基本技能における「課題発見のための視点表」を作成と活用	バドミントンにおける共生、多様な楽しみ方を見つけるためのルールの工夫や、条件や空間の工夫を実施する。
特別支援学校	高等部 (13/15時間目) ネット型 「バドミントン」	思考力、判断力、表現力等における評価規準と具体的な手立てを作成し、個々の実態に応じた適切な指導と評価を図る。	自分の課題に応じて ICT・その他の教材を効果的に活用し、主体的に活動に取り組み、課題を解決しようとする。(課題を自ら選択、決定するためのツールとして、ICT を効果的に活用する。)	障がいの実態差や運動能力の程度に関わらず、生徒一人一人が自分に合ったスポーツの関わり方を発見し、スポーツに親しむ指導を行う。

地区研究

■授業の視点

部会名	該当学年 活動内容	研究内容
小学校	第5学年 (5/7時間目) ネット型 「ソフトバレー」	知識構成型ジグソー法を活用した児童の思考力、判断力、表現力の育成
中学校	第2学年 (3/4時間目) 体育理論 「運動やスポーツの学び方」	体育理論と体育実技のつながりに関する研究として、体育理論第2学年の「運動やスポーツの意義や効果と安全な行い方」と、体育実技第2学年の「球技・ネット型」(テニス)に着目して研究を行った。具体的には「運動やスポーツの学び方」で学習する ICT 機器等を活用した「スポーツの効果的な学び方」を体育実技テニスの授業と関連させることで、3つの資質・能力を高め、生涯スポーツの実現につなげることができるのではないかと考えた。
高等学校	第2学年 (6/6時間目) 保健 「医薬品の制度とその活用」	「生徒の思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育むために思考ツールを用いた保健授業の実践について」研究を行った。思考ルールを活用することでグループワークが促進し対話的で深い学びに繋がるのではないかと考えた。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会

小学校部会

- 1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

11月7日(金)	小学校部会	9:30	10:10	11:10	14:55	15:45			
		9:00	10:00	10:55	11:55	12:55	14:45	15:40	16:00
		受付	研究会 発表 説明 (30分)	授業発表 I (つながり) (45分)	(各部会) 授業発表 II (45分)	昼食 休憩 準備	授業研究 (110分)	ポスター セッション (3コーナー)	閉会行事
会場：延岡市立南方小学校									

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
役職名	氏名
研究発表者 視点説明	延岡市立東小学校 教諭 藤井航平

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第4学年	ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	延岡市立東海小学校 教諭 野中海仁
II (地区)	第5学年	ネット型 「ソフトバレーボール」	延岡市立南方小学校 教諭 田中大希

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名
指導助言者	南九州大学人間発達学部 教授 宮内孝 宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 財津吉正
司会者	宮崎市立国富小学校 教諭 安藝良介
記録者	小林市立栗須小学校 教諭 山下駿 高原町立後川内小学校 教諭 森永由美
進行	新富町立上新田小学校 教諭 関戸映

④ 研究発表

研究発表題目	発表者
生涯にわたる心身の健康と豊かなスポーツライフを支える資質能力の育成を目指して ～思考力、判断力、表現力等を育む少人数体育学習～	日之影町立宮水小学校 教諭 渡辺智彬
進行・司会者	椎葉村立不土野小学校 教諭 河野要世
記録者	西都市立茶臼原小学校 教諭 横山正文

研究発表題目	発表者
一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方 ～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業作りを通して～	えびの市立上江小学校 教諭 串間洵郎
進行・司会者	日向市立美々津小学校 講師 壺岐直澄
記録者	国富町立森永小学校 教諭 新原翼

研究発表題目	発表者
児童が思考・判断・表現しながら技能を向上させる授業の在り方 ～指導と評価の一体化を意識した授業改善を通して～	日南市立桜ヶ丘小学校 教諭 黒木大翔
進行・司会者	都城市立川東小学校 教諭 松山拓磨
記録者	串間市立本城小学校 教諭 宇佐季笑

延岡地区小学校体育連盟の研究

I 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力の基礎を育む体育科学習
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

II 主題設定の理由

現行の学習指導要領において体育科では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目標としている。これを実現するための資質・能力として「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学び向かう力、人間性等」の3つの柱が示されている。つまり、技能的な指導に偏った授業展開ではなく、児童が自らのよさや課題をとらえ、それを解決していきながら主体的に学びに向かうことができる授業展開が求められる。そのためには、技能向上のためにただ闇雲に練習を繰り返すのではなく、自身やチームのよさや課題をとらえることがどうしても必要になる。さらに、学級やチームの仲間と対話しながら授業を進めていくことでより考えが深まり、様々な解決方法の中からよりよい解決に向けて判断することができる。

そのために延岡市小体連では、思考力、判断力、表現力等を養う授業づくりについて研究を進めてきた。具体的には、延岡市学校教育研修所常任研究員が研究している「知識構成型ジグソー法」という学習形態を用いた授業づくりについて研究してきた。令和5年度には器械運動領域の跳び箱運動「かかえ込みとび」の学習において、令和6年度はボール運動領域のソフトミニバレーの学習においてジグソー法を用いて授業を行った。2年間の研究を通して、知識構成型ジグソー法を体育科においても取り入れることで見えてきた成果として、「児童が自己やチームに適した作戦や行い方を話し合い、思考力、判断力、表現力等をはたらかせていた。」「ボール運動領域においては、『自己やチームの課題を把握してそれらを解決するための作戦を考え、友だちに伝える』という学習場面においてはジグソー法が効果的であった。」という意見が挙げられた。しかし一方で「児童同士で練習方法などを伝えあうため、安全面への配慮が特に必要である。」「ジグソー法を取り入れることで運動量の減少が見られた。」という課題も見えてきた。

このような成果と課題をふまえ、児童一人一人が対話的に関わり合いながら思考力、判断力、表現力等を伸ばし、その結果として知識及び技能の育成を図ることを目指す。その際、知識構成型ジグソー法を用いたボール運動の授業を展開することで、児童一人一人が主体的に活動しやすくなる環境をつくりつつ、様々な解決方法の中からよりよい解決に向けて判断する力を養うために、本主題を設定した。

III 研究の目標

児童の主体性を引き出し、思考力、判断力、表現力等を高めながら知識及び技能の習得と豊かなスポーツライフに向かう資質・能力を育成する。

IV 研究仮説

体育科授業において知識構成型ジグソー法を活用することで、児童の主体性が引き出され、課題に向かって取り組む中で思考力、判断力、表現力等の育成を図ることでできるであろう。

V 研究内容

- 1 知識構成型ジグソー法を用いた授業
 - (1) 研究の経緯
 - (2) 知識構成型ジグソー法の5ステップ
 - (3) これまでの成果と課題、課題への対応策

1 知識構成型ジグソー法を用いた授業

(1) 研究の経緯

知識構成型ジグソー法を授業に取り入れる背景として、主に2つが挙げられる。1つめは、宮崎県小体連の研究では、思考力、判断力、表現力等の育成に力を入れている点である。2つめは、延岡市教育研修所常任研究員が令和3年度から知識構成型ジグソー法の研究に取り組んでいる点である。このように、宮崎県小体連の研究内容と延岡市教育研修所常任研究員の研究している実践が一致している。そのため、延岡市教育研修所常任研究員と連携して知識構成型ジグソー法の研究を行うことで、宮崎県小体連が研究する思考力、判断力、表現力等の育成について新たな提案ができると考え、延岡市小体連の研究として知識構成型ジグソー法の研究を進めることとした。

(2) 知識構成型ジグソー法の5ステップ

ステップ1:個人思考

課題に対して、「自分はどうか」「なぜそう思うか」を考え、自分の意見をもつ。そうすることで、その後の話し合いでほかの意見と比べやすくなり、学びがより深まりやすくなる。そして、「ホームグループ」と呼ばれるグループをつくる。

ステップ2:エキスパート活動

「エキスパートグループ」と呼ばれるグループをいくつかつくる。各グループには課題を解決に向かわせる情報が与えられる。与えられる情報はグループによって異なり、全体として同じ課題に向き合いながら、グループによって異なる解決の方法を知ることになる。そのため、各エキスパートグループで得た情報について十分に話し合い、専門家のように詳しくなることが求められる。

ステップ3:ジグソー活動

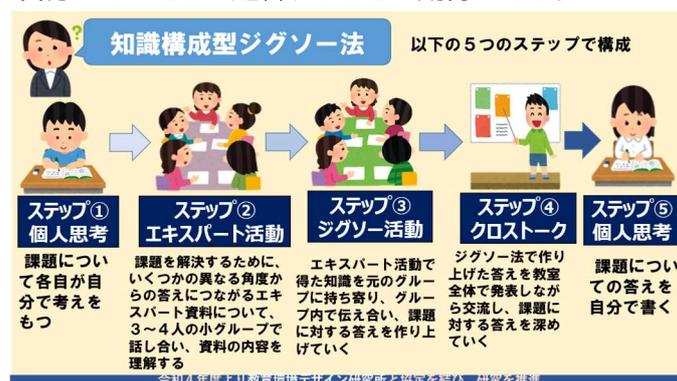
エキスパートグループで得た情報をホームグループに持ち帰り、自分のもっている情報を共有する。ホームグループには異なる情報をもったメンバーが集まり、互いに自分の情報を説明し合う。互いにもっている情報が異なるため、異なる視点から課題解決の方法を知ることができる。互いの情報を共有したら、グループとして課題を解決するための情報を話し合う。そして、課題解決のためのグループとしての意見をまとめる。

ステップ4:クロストーク

ホームグループの枠を超えて、意見を交流する。他のグループの考えを聞いたり自分のグループと考えを比較したりすることで、自分の考えを揺さぶり、さらに深めることにつながる。

ステップ5:個人思考

最初の自分の考えと比べて今の考えがどう変わったかを振り返り、自分なりにまとめなおす。これによって、学びが自分のものとして定着することが期待できる。



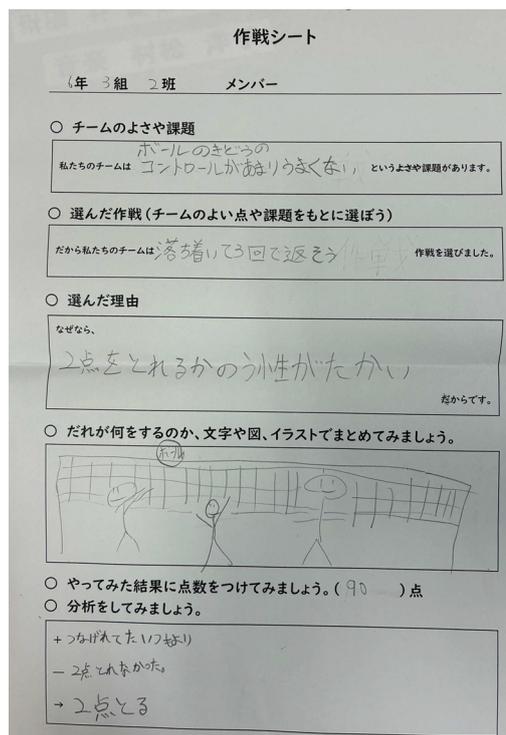
(3) これまでの成果と課題、課題への対応策

延岡市小体連では今年を含めた3年間、知識構成型ジグソー法を用いた体育学習について研究を進めてきた。そこから見えてきた成果や課題を整理する。

1 成果

- 自分のもっている情報をグループのメンバーに伝える必要があるため、児童の主体的な姿勢を自然と引き出すことができた。
- 児童が自己やチームに適した作戦や行い方を話し合い、思考力、判断力、表現力等をはたらかせていた。
- 自分の考えをもったうえで様々な考えにふれるので、元々もっていた自分の考えをさらに深めることができた。
- ボール運動領域においては、「自己やチームの課題を把握してそれらを解決するための作戦を考え、友だちに伝える」という学習場面においてはジグソー法が効果的であった。

このように、体育科学習において知識構成型ジグソー法を用いることは、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力等の育成に一定の効果があることが示唆された。



2 課題

- 思考場面や児童同士で話し合う場面が多くなり、運動量が減ってしまった。
- 児童同士で練習方法などを伝え合い選択するので、児童が間違った練習方法を伝えてしまう場合があるため、安全面への配慮が特に必要である。

以上のような課題が挙げられた。そのため今年度は、ソフトバレーボールの学習において、成果そのまま維持しつつ課題を解決できるよう授業づくりを行う方法を研究することとした。すなわち、これまでの2年間で出てきた課題を解決しつつ延岡市小体連が掲げる研究主題を達成することを目指す。

具体的には以下のような手立てをとる。

① 2時間にわたってジグソー法を取り入れる

1時間の中でステップ2の「エキスパート活動」までを行う。そして、次時でステップ5の「個人思考」までを行う。そうすることで、1時間の中で思考する時間と運動量のどちらも確保することをねらう。

② 体を動かしながら対話の時間を取り入れる

ただ対話しながら作戦を選ぶのではなく、ジグソー活動の中で作戦を選んだら、実際にその作戦をゲームの中で実践してそれを振り返る。そうすることで、運動量も確保しつつよりチームに合った作戦が選べるようにする。特にソフトバレーボールの作戦を選ぶ場面では、初めに選んだ作戦がチームに合っていない場合があるため、作戦を選んだ後にそれを試す時間を確保することで、よりジグソー法の効果を高められると考えられる。

③ ボール運動系の領域に絞る

安全面への配慮として、知識構成型ジグソー法を用いるのはボール運動系の領域に絞ることとした。過去の研究において跳び箱運動の練習の仕方を選ぶ場面でジグソー法を用いた際、児童が得た情報を間違ったかたちで児童に伝えてしまう可能性があるとの指摘があった。そうなる児童の安全が確保できないため、ジグソー法を用いる授業をボール運動系に絞ることで、より安全な練習や作戦を選べるようにし、児童の安全を確保できるようにする。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会

中学校部会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

10月17日(金)	中学校部会	9:10	9:50	10:55		14:55	15:45		
		8:40	9:40	10:40	11:45	12:30	14:40	15:40	16:00
		受付	研究会 開会行事 研究発表 視点説明	(各部会) 授業発表Ⅱ	(つながり) 授業発表Ⅰ	昼休準備 食憩備	ワーク ション ョップ 授業研究	各地区 研究発表	閉会行事
			(30分)	(50分)	(50分)		(130分)	(45分)	

① 研究発表及び視点説明

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方 (視点説明)	宮崎市立宮崎西中学校 教諭 上妻 憲祐
生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡市立北川中学校 教諭 原田 卓弥

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第2学年	球技 (ネット型：ソフトテニス)	延岡市立南中学校 教諭 前田 啓介
II (地区)	第2学年	体育理論 (運動やスポーツの学び方)	延岡市立西階中学校 教諭 徳 淵 喬

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名	
指導助言者	宮崎大学教育学部	教授 日高 正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 甲斐 浩記
司会者	新富町立富田中学校	教諭 浮島 大介
記録者	小林市立三松中学校	教諭 岡上 桂
	宮崎市立大淀中学校	教諭 水元 竜太郎
進行	美郷北義務教育学校	教諭 佐藤 浩行

④ 地区研究発表

	【地区】 研究発表題目	発表者
1	【日向】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日向市立東郷学園 教諭 矢野 正道
2	【宮崎】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 寶田 光貴
3	【都城】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	都城市立山之口中学校 教諭 鹿島 鉄平
4	【南那珂】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日南市立飫肥中学校 指導教諭 田中 美津子

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力を育む保健体育科学習の在り方」

～ 生徒一人一人の思考力, 判断力, 表現力等を養う授業の創造と展開 ～

～ 体育理論と体育実技のつながりに着目して ～

延岡地区中学校体育連盟

1 研究の目的

令和3年1月23日の中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」では、学習指導要領に示されている「誰一人取り残さない持続可能な社会の創り手の育成」を目指し、2020年代を通じて目指す学校教育の姿が示されている。

また、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、一人一人の児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが示されている。

このような中、保健体育科においては、児童生徒の課題として「運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられること」、「運動時間の減少に伴う体力の低下が進んでいること」、「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であること」などが挙げられている。

そこで本地区では、他者との関わりを通して生徒自身が運動や健康に関する課題を発見し、解決に向かう学習の在り方について、より深く研究を進めることとし、本主題を設定した。

また、副題を「生徒一人一人の思考力, 判断力, 表現力等を養う授業の創造と展開」とし、本地区独自の副題として「体育理論と体育実技のつながりに着目して」を設定した。これまで取り組んできた「思考力, 判断力, 表現力等」に関する研究に加え、体育実技と体育理論を関連させた学習を実践することで、保健体育科の学習課題の解決に迫れるのではないかと考えている。

2 研究の仮説

体育理論と体育実技のつながりを意識し、生徒一人一人の思考力, 判断力, 表現力等を養う授業づくりをすれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

3 研究の内容

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

○ 思考・判断・表現における「実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

○ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」(全4時間)の指導案と授業スライドの作成

4 研究の計画

期 日	内 容	場 所・備 考
R7 5.19	第1回地区研究部会 今年度の研究の方向性検討	西階中学校 会議室
R7 6.20	第2回地区研究部会 指導案検討	社会教育センター

R7 7.10	第3回地区研究部会 第1回授業研究会・反省・意見交換	南中学校
R7 8.26	第4回地区研究部会 指導案の検討 指導方法、学習資料の検討	社会教育センター
R7 10.2	県学体研事前研究会	アスリートタウン延岡 サブアリーナ
R7 10.17	県学体研発表大会	アスリートタウン延岡 サブアリーナ
R8 1.16	第5回地区研究部会 研究のまとめ 来年度の方向性	社会教育センター

5 研究方法

(1) 2班編成(テニス班、体育理論班)を行い、それぞれの班で資料の作成、検討および授業実践を行いながら、授業で活用しやすい資料の作成や授業方法の提案・改善を行う。

(2) 授業研究会の実践・検証

① 研究授業

7月 延岡市立南中学校 前田 啓介 教諭 (ネット型:テニス)

10月 延岡市立西階中学校 徳淵 喬 教諭 (体育理論:運動やスポーツの学び方)

延岡市立南中学校 前田 啓介 教諭 (ネット型:テニス)

6 研究の実際

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

① 思考・判断・表現における「実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

球技における思考力、判断力、表現力等については、学習指導要領に例示されている内容を評価規準として位置付け、それを基にB評価の基準を設定し、さらにA評価およびC評価の基準を具体化した。体育理論については、学習指導要領に具体的な例示がないため、体育理論以外の共通の例示を抽出して評価規準とし、それを基に評価基準を設定した。さらに、C評価・B評価に該当する生徒に対して、教師が具体的にどのような手立てを講じるかを明確にすることで、指導と評価の一体化を図った。

「体育理論 第1学年及び第2学年における思考・判断・表現に関する評価規準表」

	運動	体育 理論 学習	運動 実践	A	B	C
1	○			動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。 <i>言葉だけでなく、動きを変えて伝えるよう例を提示しながら助言する。</i>	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間の出来映えと違っていたり、わからなかったりしている。 <i>模範となる動画を提示し、比較させることで違いを見つけさせる。</i>
2	○			提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 <i>模範動画の動きのポイントや着目すべきポイントについて提示する。</i>	自己の課題がわからなかったり、自己の課題に適した練習方法を選ぶことができなかったりしている。 <i>仲間からの動きや自分の動きを視し、違いを思考させることで課題の把握につながる。 各練習方法の目的を提示する。</i>
3		○		学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、根拠を示し仲間に伝えている。	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 <i>具体的にどのような危険性があるのかを伝えるように助言する。</i>	学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えているが、配慮が不十分である。 <i>安全上の留意点のポイントを提示する。</i>
4			○	協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。	協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 <i>見付けたことを記入させ、仲間に伝えるよう助言する。</i>	協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付けることができていない。 <i>役割に対する具体的な活動の姿を提示する。</i>
5		○	○	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。	様々な違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 <i>自分の考えた方法を実践するために必要な動き方の具体例を挙げる。</i>	様々な違いに配慮できなかったり自分の楽しさにこだわってしまったりしている。 <i>体力や技術の程度、性別等の違いで取り組みやすい課題を提示する。</i>

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

① 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」(全4時間)の指導案と授業スライドの作成

本単元「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」では、徳淵教諭が作成した単元計画を基盤に、地区全体で本時案および授業スライドを共同で作成した。作成にあたっては、体育実技で行っているテニスと関連付けることで、知識と実践の往還を図れるよう工夫した。さらに、ロイロノートのシンキングツール等を活用し、生徒が自らの考えを整理・可視化できるよう配慮するとともに、意見交換やグループワークを効果的に取り入れ、思考の深化と対話的な学びの充実を促した。

【指導案】

3. 運動やスポーツの安全な行い方 (4/4)			
1 単元(題材) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方			
2 本時の目標			
○ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを言ったり書いたりすることができる。 (知識)【ワークシート・観察】			
○ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)【ワークシート・観察】			
3 学習指導過程			
過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価
導入	1 運動やスポーツを行っているときのけがや事故の実態について知る。		
	2 本時の学習課題を確認する。 運動やスポーツを安全に行うにはどうしたら良いだろうか？		
展開	3 事例を基にけがの原因について考える。	○ 「時間」「頻度」「強度」の3つのポイントに着目し簡潔にまとめる。 ○ 「運動前」「運動中」「運動後」の3つの場面に絞ることで、日頃留意していることに気づくようにする。	○ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを言ったり書いたりしている。 【ワークシート・観察】 ○ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むことができる。 【ワークシート・観察】
	4 けがを防止するための運動やスポーツの計画の立て方について理解する。		
	5 運動やスポーツ中のけがを防止するために具体的に留意することについて考える。		
	6 自分の意見を班員に伝え、班の意見をまとめる。		
	7 運動やスポーツ中のけがを防止するための留意点をまとめる。		
まとめ	8 本時のまとめを行う。 運動やスポーツを安全に行うには… 強度・時間・頻度に配慮した計画を立て、準備運動、こまめな水分補給、整理運動等を行う。		
	9 事例を基にけがを防止するためにどのようなアドバイスができるか考える。		

【授業スライド】

1 運動やスポーツの効果
2年, 体育理論—1時間目

スポーツの実施状況等に関する世論調査(スポーツ庁2017)

多	1位… 健康のため(77.4%)
	2位… 体力増進維持(53.0%)
	3位… 楽しみ・気晴らし(45.1%)
	4位… 運動不足解消(43.3%)
少	5位… 筋力増進・維持(33.8%)

運動やスポーツの実施 → 体 効果がある
心

Q. これまでを振り返って運動やスポーツをしていて良かったなど思うことは？

提出箱①

1. 体への効果 運動やスポーツを行う効果①

- 体の発育・発達
- 運動技能の上達
- 体力の維持・向上

体力… 活 **体の健康を保つ**

- 巧みさ → 脳・神経
- 力強さ → 筋肉・骨
- 粘り強さ → 呼吸器・循環器

学習課題

運動やスポーツにはどのような効果があるのだろうか？

2. 心への効果 運動やスポーツを行う効果②

- 達成感を得る
- 自信がつく
- 意欲がでる
- ストレス解消(リラクセス)
- 感情のコントロール

↓

心の健康を保つ

(3) 検証授業及び事後研究

①模擬授業について

8月26日(火)の延岡地区研究部会において西階中学校 徳淵 喬教諭による模擬授業を行った。単元は、第2学年「体育理論:運動やスポーツの学び方」である。

②事後研究について

模擬授業後に授業研究会を実施した。主な課題として、①授業の1時間に PDCA サイクルの全てを盛り込むことが時間的に可能であるか、②体育理論の時間に実技を取り入れることが効果的であるかの2点が挙げられた。今回の模擬授業では、運動の分析、練習メニューの作成、その有効性の確認、さらには見直しまでを1時間で実施する計画であった。その中でも「練習メニューの作成」においては、生徒がつかずく可能性が懸念された。そこで、そのような場面で支援できる具体的な手立てや補助資料の作成を行った。

【事後研究会での主な反省点】

主な反省点
<ul style="list-style-type: none">● PDCA サイクルの全てを行うと時間的に厳しい● 動きの変容を確認するために実技を取り入れたが、体育理論の授業においてその方法が適切であるかについては、検討の余地がある● 導入段階では、前時の復習を行うだけでなく本時へ向けての課題意識をもたせることが必要● 今回はチーム全体の課題を解決するための練習方法を考案したが、個人やペアの課題に応じた練習方法を考案することも有効だと思う● 動画分析では課題と良い動きについて分析を行ったが、課題のみで十分だと思った

7 成果と課題

(1) 成果

- 体育理論と体育実技を関連付けて指導することで、知識と実践の往還が促進され、生徒の学びの充実につながった。
- 単元全体の授業スライドを考案したことで、各時間の授業イメージを具体的に把握でき、授業のつながりを意識した単元計画の作成につながった。

(2) 課題

- テニス用具の不足により実践校が限定され、結果として、本提案の各資料(「実現状況を判断する目安」「具体的な手立て」「指導案」「授業スライド」)の妥当性は十分に検証できなかった。
- 体育理論の授業に実技を取り入れること自体が目的化しがちであった。本時の目標を達成するための手立てとして実技を位置づけ、意図的かつ効果的に活用することを念頭に授業づくりに取り組む必要がある。

8 参考文献

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 文部科学省
- 第65回宮崎県中学校体育研究発表大会中学部会研究集録 宮崎県中学校体育連盟
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価における参考資料 文部科学省 国立教育政策研究所

第66回宮崎県学校体育研究発表大会

高等学校部会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

11月7日 (金)	高等学校部会	9:20	9:50	10:00	10:15	10:35	10:45	11:40	12:25	13:20	13:30	15:00	15:10	15:45	16:00
		受付	開会行事 (10分)	教科研究委員会発表 (15分)	視点説明 (20分)	授業発表Ⅰ (つながり) (55分)	昼休憩準備 (45分)	授業発表Ⅱ (各部会) (55分)	ワークショップ (90分)	研究発表 (35分)	閉会行事				

① 教科研究委員会発表

内 容	発 表 者
生徒の「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を育む手立ての工夫 ～思考ツール活用の在り方～	県立小林秀峰高等学校 教諭 太田 聡 (県高体連 教科研究委員長)

② 視点説明

視点説明	県立五ヶ瀬中等教育学校	教諭 吉岡 奈津希
------	-------------	-----------

③ 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：バドミントン)	県立延岡星雲高等学校 教諭 近藤 伸哉
II (地区)	第2学年	保 健 (医薬品の制度とその活用)	県立延岡星雲高等学校 教諭 加藤 順也

④ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名
指導助言者	日本女子体育大学 教授 高橋 修一
司会者	県立妻高等学校 教諭 角田 太
コーディネーター	県立小林秀峰高等学校 教諭 太田 聡 県立高千穂高等学校 教諭 甲斐 奎佑
記録者	延岡学園高等学校 講師 楠元 龍水 県立延岡工業高等学校 教諭 山中 貴弘

⑤ 研究発表

	研究発表題目	発 表 者
1	【西諸支部】 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに継続するための資質・能力を育む保健体育科学習～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う球技ネット型の授業をとおして～	県立飯野高等学校 教諭 都甲 尚寛
2	【宮崎・東諸支部】 ICTとシンキングツールを活用した授業の展開 ～「主体的・対話的で深い学び」を生み出す環境づくり～	宮崎学園高等学校 教諭 溝口 政志
役 職 名	氏 名	
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 白石 剛二	
司会者	県立妻高等学校 教諭 角田 太	
記録者	県立日向高等学校 教諭 濱田 悠暉 県立門川高等学校 教諭 寺田 勢哉	

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、
継続するための資質・能力を育む保健体育科学習
～保健体育学習における思考力、判断力、表現力等を養う授業及び評価の事例研究～

2 研究の目的

保健体育の学習において思考力、判断力、表現力等を養うことに着目し、思考ツールを活用した授業実践を通じて、生徒自らが課題を発見し、合理的かつ計画的に解決する過程を支援する教育方法の開発とその効果検証を行う。また、これらの資質・能力の育成を適切に評価する具体的な評価方法を提示し、学習評価の質的向上を図ることを目的として、本主題を設定した。

3 研究の仮説

思考ツールを活用した保健体育の授業を実施することで、自身の考えを整理しやすくなり、論理的な思考力が高まるとともに、課題に対する判断力や解決策の表現力の向上につながるのではないかと仮説を立てた。

4 研究の内容

保健・体育の授業における思考ツールの活用

5 研究方法

- (1) 地区研究委員会での検討
- (2) 各学校での実践
- (3) 県北支部研究授業発表

授業者：延岡学園高等学校 講師 楠元龍水
宮崎県立門川高等学校 教諭 寺田勢哉

- (4) 宮崎県学校体育研究発表大会

第2学年 保健 医薬品の制度とその活用

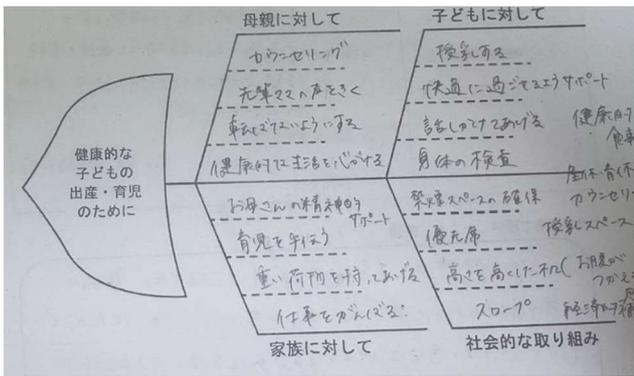
授業者：宮崎県立延岡星雲高等学校 教諭 加藤順也

6 研究の実際

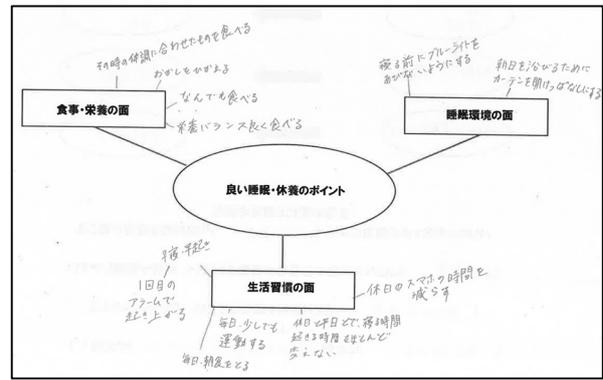
- (1) 各学校における思考ツールの活用

宮崎県高等学校体育連盟教科研究委員会が作成した「思考ツール活用事例集」を参考に、各学校の保健・体育の授業において思考ツールを活用する実践に取り組んだ。

各学校での実践後、地区研究委員会にて意見交換を行った。議論の中で、思考ツールを効果的に活用するためには、生徒の思考を深めるような「良い問い」を立てることが重要であるという意見が最も多く挙がった。単に思考ツールを使うことが目的とならないよう、個人での思考を深める時間やグループや全体で意見交換を行う時間など工夫する必要があるとの声もあった。また、与えられた課題が1時間の授業で完結するにはボリュームが大きくなってしまいう課題も共有された。



例) フィッシュボーン (妊娠・出産と健康)



コンセプトマップ (休養・睡眠と健康)

(2) 研究授業から見てきたこと

県北支部で実施された研究授業では、思考ツールを活用した授業の具体的な成果と課題が見えてきた。

成果としては、思考ツールを用いることで、生徒が自分の考えを視覚的に整理し、論理的な思考を深めることができた。特に、複雑な概念や複数の要因が絡む課題について、生徒自身が思考の道筋を立てやすくなるという効果が確認できた。また、生徒同士の活発な意見交換が生まれ、互いの考えを共有しながら、課題に対する多角的な視点を持つきっかけとなった。普段、意見を述べることに消極的な生徒も、思考ツールに書き出した内容をもとに発言することができ、授業への参加意欲の向上につながったという報告もあった。

課題としては、一部の生徒にインターネットからの安易な引用や、思考ツールの形式的な利用が見られた。また、思考力、判断力、表現力等といった非認知能力の評価が、教師の主観に左右されやすいという課題が明らかになった。思考のプロセスや表現の質を評価する明確な規準が、まだ十分に確立されていないという指摘が多く挙げられた。さらに、生徒によっては、思考ツールに記述すること自体に時間を要し、授業の流れが滞る場面も見られた。教師が生徒の習熟度や授業内容に合わせて、思考ツールの種類や活用方法を適切に選択する必要性も感じられた。

7 研究成果と課題

(1) 成果

- 思考ツールを活用することで、生徒が自身の考えを整理し、課題解決に向けて論理的に思考する能力の育成につながった。
- 思考ツールを介した意見交換により、生徒の主体的な学習参加が促され、授業への関心・意欲の向上が見られた。
- 教員にとって、思考ツールに記述された内容から生徒の思考過程を把握しやすくなり、より効果的な個別指導や助言が可能になった。

(2) 課題

- 思考ツールを有効に機能させるためには、「良い問い」の設定が不可欠である。
- 思考力、判断力、表現力など、非認知能力を客観的に評価する明確な評価規準の確立が必要である。
- 授業時間内で思考ツールの活用と意見交換を効果的に配分するための、単元計画や指導方法の更なる工夫が必要である。
- インターネット上の情報をそのまま利用する生徒への対応として、情報の真偽や出店を吟味する力の育成も課題として挙げられる。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会

特別支援学校部会

- 1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

10月17日(金)	特別支援学校部会	10:00	10:40	11:40	13:00	14:10	14:50	
		9:30	10:30	11:30	12:00	14:00	14:40	15:00
		受付	視点説明 開会行事 (30分)	授業発表I (つながり) (50分)	授業研究会I 研究発表協議 (20分)	昼休準備 食憩備	授業研究会II ワークショップ 授業研究 (60分)	研究発表 (30分)
会場： 宮崎県立延岡しろやま支援学校								

① 視点説明

視点説明	県立延岡しろやま支援学校	教諭	金田健吾
------	--------------	----	------

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	高等部	球技 (バドミントン)	県立延岡しろやま支援学校 教諭 上野航

③ 授業研究会I・授業研究会II

役職名	氏名		
指導助言者	日本体育大学体育学部	准教授	村井敬太郎
担当者	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	長友啓輔
司会者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	伊東寿晃
記録者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	野田航平
	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	小松鉄平
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

④ 研究発表

活動報告及び研究発表題目		発表者	
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習～「ひなたの学び」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指して～		県立児湯るびなす支援学校 教諭 坂田拓也	
役職名	氏名		
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	五十嵐 舞
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

幼児教育の様子

(延岡・西臼杵地区)

五ヶ瀬町保育所運動教室（五ヶ瀬町）

五ヶ瀬町では年に2回、町内の小・中学校の教職員が講師となって町内の園児に対して運動教室を実施する取組を行っている。目的や期日、活動内容は以下の通りである。

1 目的

- 学校の教員が、①体育科の専門性を生かした活動を行うことで、保育所の子どもたちの体力の向上に資する。
- 学校の教職員が保育所と連携して体育的活動を行うことで、②保育所との情報交換がさらに図られるとともに、五ヶ瀬教育グランドビジョン③（五ヶ瀬 A.S.カリキュラム）の推進に資する。

※ 五ヶ瀬 A.S.カリキュラムは、保育所年長（A:小学校へのアプローチ期）から小学校入学（S:小学校のスタート期）へつながる「学びの架け橋」である。

2 期日（年間2回予定）

- (1) 第1回令和7年7月28日（月）午前10時から午前11時まで
- (2) 第2回1月実施予定

3 活動内容

(1) 簡単な集団行動

小学校での集団行動に触れさせることをねらいとしながら、簡単な集団行動を行っている。

〔具体的な活動の例〕

・前へならえ→なおれ ・休め、気を付け など



【『前へならえ』の様子】



【『休め』の様子】

(2) 言うこと一緒、やること一緒

3～4人の小グループで縦1列になって肩に手をやり、教師の「前」や「右」などの合図に合わせて体を前後左右に一歩分ずつ移動させる。途中からは全員で1列になり難易度アップで園児たちも夢中な様子。



【小グループでの運動の様子】



【全員で1列になったの運動の様子】

(3) フラフープを使った運動遊び

教師がバックスピンをかけて転がしたフラフープを、タイミングをはかってくぐり抜ける運動遊び。



【フープをくぐり抜ける様子】



【タイミングをはかる様子】

(4) 早歩き鬼ごっこ

2人組になってじゃんけんをして鬼を決め、決められた範囲内で早歩きの条件付きで行う鬼ごっこ。つかまったら鬼を交代する。



【ペアで鬼を決める様子】



【鬼ごっこを楽しむ様子】

(5) ドラゴンボール

- ① 4か所（十字で離れた）にフラフープを設置する。
- ② 十字の中央にソフトボールを7個置く。
- ③ 自分のフープ内に1個ずつボールを運び入れ、早く自分のフープ内に3個のボールを集めた人の勝ち。中央に置かれたボールが無くなったら自分以外のフープにボールを取りに行く。



【中央に置かれたボールを取りに行く様子】



【自分のフラフープにボールを集める様子】

4 まとめ

- ・ 少人数という地域の特性を生かして保幼小の連携が密に図られていた。この日の活動内容も事前に保育所の先生方と講師の先生で情報交換を行った上でその年の園児の実態に合った内容で、小学校との接続を円滑にすることを意図して運動プログラムが組まれていた。
- ・ 園児たちも普段は使えない広い場所を使って専門的な指導を受けられることで、汗びっしょりになりながら楽しそうに精いっぱい体を動かす姿が見られた。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会 大会役員

役職名	氏名	職名
名誉会長	吉村 達也	宮崎県教育委員会 教育長
名誉副会長	柏田 学	宮崎県教育委員会 副教育長
〃	吉玉 拓	宮崎県教育委員会 教育次長
〃	田中 幸一	宮崎県教育委員会 教育次長
〃	高森 賢一	延岡市教育委員会 教育長
〃	戸敷 二郎	高千穂町教育委員会 教育長
〃	橋本 範憲	日之影町教育委員会 教育長
〃	津奈木 考嗣	五ヶ瀬町教育委員会 教育長
会長	木宮 浩二	宮崎県学校体育研究会 会長
副会長	田中 裕久	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長
〃	長尾 岳彦	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	谷口 行孝	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	山腰 美穂子	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	安在 康喜	地区実行委員会 会長
顧問	重盛 文人	宮崎県教育庁北部教育事務所 所長
〃	岩切 隆人	延岡市教育委員会 学校教育課長
〃	湯川 哲	高千穂町教育委員会 教育総務課長
〃	平川 誠二	日之影町教育委員会 教育次長
〃	垣内 広好	五ヶ瀬町教育委員会 教育次長
〃	山本 敏	地区実行委員会 副会長
〃	松浦 俊二	地区実行委員会 副会長
〃	西田 浩司	地区実行委員会 副会長
〃	鬼束 美和	地区実行委員会 副会長
〃	肱岡 憲吾	地区実行委員会 副会長
〃	阿部 泰宏	小学校部会会場校 校長
〃	木村 淳子	小学校部会発表校 校長
〃	菊池 みどり	中学校部会発表校 校長
〃	安在 康喜	中学校部会発表校 校長
〃	柳井 健二	高等学校部会会場校 校長
〃	肱岡 憲吾	特別支援学校部会会場校 校長
参与	酒井 宏幸	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐
〃	齋賀 哲也	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐
〃	松下 修士	宮崎県教育庁北部教育事務所 教育推進課長
委員長	有水 浩智	宮崎県学校体育研究会 理事長
副委員長	児玉 健	宮崎県教育庁スポーツ振興課 副主幹(学校体育担当)
〃	年永 健二	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	前田 浩司	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	門村 裕香	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	大久保 高広	地区実行委員会 委員長

役職名	氏名	職名
委員	財津吉正	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	甲斐浩記	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	白石剛二	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	五十嵐舞	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	黒木章宏	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 副主幹
〃	水尾彰太	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事
〃	田爪鉄平	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事
〃	池袋豊	宮崎県教育庁北部教育事務所 指導主事
〃	安保隆昭	延岡市教育委員会 指導主事
〃	大石彰	高千穂町教育委員会 主幹
〃	奈須康浩	日之影町教育委員会 指導主事
〃	堀川貴史	五ヶ瀬町教育委員会 指導主事
〃	安藝良介	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	上妻憲祐	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	佐久間英二	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	長友啓輔	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	永野佳太	地区実行委員会 副委員長
〃	樋口純平	地区実行委員会 副委員長
〃	柿木龍馬	地区実行委員会 副委員長
〃	久保真由美	地区実行委員会 副委員長
〃	伊東寿晃	地区実行委員会 副委員長
〃	原田卓弥	地区実行委員会 委員
〃	藤井航平	地区実行委員会 委員
〃	渡辺智彬	地区実行委員会 委員
〃	梅垣仁志	地区実行委員会 委員
〃	吉岡奈津希	地区実行委員会 委員
〃	金田健吾	地区実行委員会 委員
〃	野中海仁	地区実行委員会 委員
〃	田中大希	地区実行委員会 委員
〃	前田啓介	地区実行委員会 委員
〃	徳淵喬	地区実行委員会 委員
〃	近藤伸哉	地区実行委員会 委員
〃	加藤順也	地区実行委員会 委員
〃	上野航	地区実行委員会 委員
〃	(佐久間英二)	宮崎県学校体育研究会 事務局

第66回宮崎県学校体育研究発表大会 県実行委員会委員

役職名	氏名	職名	所 属
委員長	木宮浩二	宮崎県学校体育研究会 会長	宮崎県立日南振徳高等学校
副委員長	田中裕久	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長	宮崎県教育委員会
〃	重盛文人	宮崎県教育庁北部教育事務所 所長	北部教育事務所
〃	長尾岳彦	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎市立赤江小学校
〃	谷口行孝	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎市立赤江中学校
〃	山腰美穂子	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎県立みなみのかぜ支援学校
委員	齋賀哲也	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐	宮崎県教育委員会
〃	児玉健	宮崎県教育庁スポーツ振興課 副主幹(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	財津吉正	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	甲斐浩記	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	白石剛二	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	五十嵐舞	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	黒木章宏	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 副主幹(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	水尾彰太	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	田爪鉄平	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	松下修士	宮崎県教育庁北部教育事務所 教育推進課長	北部教育事務所
〃	池袋豊	宮崎県教育庁北部教育事務所 指導主事	北部教育事務所
〃	岩切隆人	延岡市教育委員会 学校教育課長	延岡市教育委員会
〃	湯川哲	高千穂町教育委員会 教育総務課長	高千穂町教育委員会
〃	平川誠二	日之影町教育委員会 教育次長	日之影町教育委員会
〃	垣内広好	五ヶ瀬町教育委員会 教育次長	五ヶ瀬町教育委員会
〃	安保隆昭	延岡市教育委員会 指導主事	延岡市教育委員会
〃	大石彰	高千穂町教育委員会 主幹	高千穂町教育委員会
〃	奈須康浩	日之影町教育委員会 指導主事	日之影町教育委員会
〃	堀川貴史	五ヶ瀬町教育委員会 指導主事	五ヶ瀬町教育委員会
〃	安在康喜	地区実行委員会 会長	延岡市立西階中学校
〃	有水浩智	宮崎県学校体育研究会 理事長	宮崎県立宮崎南高等学校
〃	年永健二	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎市立生目台東小学校
〃	前田浩司	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎市立宮崎西中学校
〃	門村裕香	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎県立みなみのかぜ支援学校
〃	安藝良介	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎市立国富小学校
〃	上妻憲祐	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎市立宮崎西中学校
〃	佐久間英二	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎県立宮崎南高等学校
〃	長友啓輔	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎県立清武せいりゅう支援学校
〃	大久保高広	地区実行委員会 委員長	延岡市立土々呂中学校
〃	(佐久間英二)	宮崎県学校体育研究会 事務局担当	宮崎県立宮崎南高等学校

宮崎県学校体育研究会 事務局

〒880-0926

宮崎市月見ヶ丘5丁目2番1号

(宮崎県立宮崎南高等学校 内)

宮崎県高等学校体育連盟事務局)

TEL 0985-51-4109

FAX 0985-51-4298

E-mail info@miyazaki-koutairen.com